

## 第2回十日町市学区適正化検討委員会会議録

開催日：平成30年7月30日（月）午後7時～

会 場：川西庁舎（第1研修室）

### 出席委員

高橋委員長、古澤副委員長、須藤委員、渡邊委員、藤巻委員、丸山委員、水落委員、鈴木委員、江口委員、五十嵐委員、山賀委員、井上委員、小野塚委員

### 欠席委員

根津委員、田口委員、南雲委員

### 事務局出席者

蔵品教育長、樋口子育て教育部長、長谷川教育総務課長、山岸学校教育課長、山本指導管理主事、市川教育総務課長補佐、富澤教育総務課教育施設係長

開会 午後7時

#### 1 開会あいさつ 高橋委員長

先日は、皆さんから特徴のある各学校を視察していただき、今後の討議の参考になると思う。本日はグループ討議ということで意見を発言いただきよろしくお願いします。

#### 2 資料説明

事務局により説明

委員長

- ・適正規模のイメージで「B学区、小学校、H30」に田沢小と貝野小の数字が入っていないのはなぜか。

課長補佐

- ・2つの小学校を加えなくても12クラスができるということである。

委員

- ・南中学校と吉田中学校が入っていないがなぜか。

課長補佐

- ・仮に適正規模の中学校を当てはめてみたイメージである。十日町市全中学校を組み合わせたわけではない。南中は、既に学年3クラスで適正規模と言える。

課長

- ・この組み合わせがどうかと言うことではなく、適正規模の範囲はこのくらいになるということで、仮に置いてみたイメージである。

#### 3 議 事

##### (1) 前回会議録の確認

- ・事務局により説明

委員

- ・前回7月3日の検討委員会の内容が新聞記事にされ、多方面で私の発言が憶測をよんでいる。私の言葉足らずの面が悪かったと反省している。新聞には、現在の

飛渡第一小学校区において、地域が統合反対、PTAが統合賛成という書き方であるが、私はそういう意図で発言をしていない。5年前に統合が議論された際に、保護者の多数は統合するものと思っていたら地域の話し合いで統合しないことになったと、当時のPTA役員の話ということで話させてもらった。

これから就学される子どもの親の中には、中条小学校へ入学させたいという意見を持つ方がいると聞いているが、教育委員会は、地域の総意として要望があれば統合させると言っている。統合する、しないは現在の校区民の方々がよく話し合っていて、私としては学区が割れるようなことにはなって欲しくないと感じている。

新聞記事を見て、私は若干ショックを受けている。

委員長

- ・新聞は、先走ったことを書いたりすることもある。それに対してはどうかと思うが、一緒になって考えていけたらと思う。  
(以上の質疑のあと承認された。)

## (2) グループ討議 (ワークショップ)

- ・3グループに分かれ、事務局により進行

## (3) 討議結果発表

### ・Aグループ

課題・問題点としては、地域の拠り所としての学校という面で、地域の維持ということも大切である。小規模校では、部活、クラブ活動や多くの意見を聞くなどの多様性に欠ける。教職員の不足及び若年化で確保が難しい。小規模校が統合しても、学級増にはならないで教員も増えないことが考えられる。統合によってスクールバス利用となり、活動の時間的制限があるのではないか。

課題克服のための方法としては、子どもは地域の宝であり、地域の維持にも関わるので、子どもが地域性を学ぶことが大事である。小規模校の活動を引き継ぐことで多様性が確保される。学校の統合についても、小学校と小学校という考えだけでなく、小学校と中学校の統合も考慮することで、学校を地域に残すことになるのではないか。教職員の確保や活動の充実には、地域の教員退職者やエキスパートの活用などで市単独の取組みも必要となり、多様性をどう保障するか検討が必要。試みとして、適正規模の人数を集めて体験してみることもあっていいのではないか。

### ・Bグループ

学校統合については、通学距離や時間の問題がある。地域において学校は拠点となっており、統合により校区が広がり地域に根ざした教育やコミュニティが存続できるのか。子どもを地域で育てるという視点もあるのではないか。教育環境としては、向上心や競争心、多様な考え方が育まれるような環境が必要であり、選択肢を広げることも大切である。教職員の配置も人数や教科など適正な配置が必要。エアコン等の施設整備の平等化・迅速化が必要である。

課題克服のためには、児童生徒数、教職員数を考慮すると一定規模の学校が適正であり、交通の便等を考え通学方法を再検討し、エリアの中心に校舎の新築す

る必要もある。今以上に、中学校区内のPTAを含めた小学校交流を深め、大人の間人間関係を作り、子どもたちの人間関係を作る。また、各地域のスペシャリストによる地域教育も必要。地域同士での話し合いを持つことや県に対しての教員の配置について、また予算面など市や教育委員会のさらなる働きかけが必要である。

・ Cグループ

統合については、子どものための統合が中心にある。各教科の教員や養護教員が確保されることや、規模が大きくなれば自校給食もできるのではないかと。また、競争意識、意見の多様性、競技の経験、複式学級の解消など子どもたちにとっては利益になることが多くある。問題点として、登下校のスクールバスの運行時間による活動の制限があるのではないかと。統合に伴い適正規模の教室を確保するために増築をするのか。またその場所については、地域の中心的位置が良い。PTAはもとより後援会との繋がりも大切であり、統合後のケアを充分に行わないと地域の方たちとの関係が希薄になる心配がある。学区が広がったときに、子どもと地域の人たちとの繋がりを考えた方が良い。一番の問題点は、地域の方たちを説得できるかということである。まずは、主役は子どもであり、地域も大事ではあるが子どもの育ちのためということをもって、問題を整理しなくてはならない。親の理由やその他の理由により、学区外の小学校へ通っているという経験者の話などが地域の人には響くのではないかと。地域の人を説得するために数年待つのであれば、子どもが卒業してしまう前に、行政の強い力で押し通して欲しいと思う。一番中心には子どもということを中心に話を進めていきたいという結果であった。

(4) 意見交換

(質疑なし)

- ・ ご意見が無い様なので議事は終了する。

(5) その他

次回開催日程は、9月27日(木)午後7時から 川西庁舎第1研修室で行う。

8 閉 会

副委員長あいさつ

- ・ お疲れ様でした。ワークショップは慣れないが、ご一緒した皆さんの意見になるほどと思い、各グループの発表を聞いて色々な意見を聞いて学ぶことが大事なことでと見えさせられた。この意見を基に次回に繋げていきたいと思う。

午後9時05分 終了